



小笠原研究年報
36

小笠原研究年報

36



二〇二二年度



首都大学東京小笠原研究委員会

2012年度
(2013年5月発行)

首都大学東京小笠原研究委員会



小笠原研究年報

36

2012年度
(2013年5月発行)

首都大学東京小笠原研究委員会

表紙写真（撮影：加藤英寿）

左上：聳島（大山山頂から南浜方面）

右中：父島（中央山山頂から旭山・三日月山方面）

左中：母島（堺ヶ岳山頂から乳房山方面）

右下：南硫黄島（北側の海上から松江岬方面）

小笠原研究年報 第 36 号 (2012 年度)

目 次

調査報告・解説

小笠原諸島のショウジョウバエ相—1990 年から 2012 年までの変化— ……………和多田 正義・吉岡 伸也・薦田 麻衣・加藤 雄大 ……	1
父島におけるトクサバモクマオウのリターの分解過程 ……………畑 憲治・可知 直毅 ……	11
アメリカと小笠原群島の遭遇史 ……………クラマー スコット ……	19
東京都内における司法過疎問題の実態について—小笠原を中心として— ……………酒井 享平・山上 博信・上石 圭一 ……	35

研究ノート

父島の東平で見つかった両性と思われるムニンアオガンピ ……………永光 輝義・大門 夢果・鈴木 節子 ……	57
小笠原諸島におけるコブラン <i>Ophioglossum pendulum</i> の再発見 ……………川口 大朗・向 哲嗣・勝部 五葉 ……	61
父島・母島における南根腐病の発生状況および宿主植物 …島田 律子・向 哲嗣・小野 剛・大林 隆司・佐藤 豊三・ 佐橋 憲生・秋庭 満輝・太田 祐子・升屋 勇人・服部 力 ……	71
母島列島主要属島におけるオナガミズナギドリ <i>Puffinus pacificus</i> の繁殖地確認 ……………川口 大朗・向 哲嗣・勝部 五葉・川上 和人 ……	79

年次報告と資料

2012 年度の研究体制 ……	83
2012 年度小笠原研究費会計報告 ……	84
平成 24 年度小笠原研究施設利用者一覧 ……	85
平成 24 年度小笠原研究施設等月別利用状況 ……	92
小笠原研究施設の利用について ……	93
「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research」について ……	94
首都大学東京小笠原研究施設使用要綱 ……	99

年次報告と資料

2012 年度の研究体制

小笠原研究委員会

1. 委員（規程第3条）

都市教養学部	人文社会系	教授	高桑	史子
都市教養学部	法学系	教授	酒井	享平
都市教養学部	経営学系	教授	宮川	彰
都市教養学部	理工学系	教授	可知	直毅
都市環境学部		教授	沼田	真也
システムデザイン学部		教授	長澤	親生
健康福祉学部		教授	福士	政広
大学教育センター		准教授	越	朋彦
オープンユニバーシティ		教授	菅又	昌実
都市教養学部理工学系長			岡部	豊
首都大学東京管理部長			宮原	照文

2. 事務局

理系管理課	庶務係	田中	功
	庶務係長	雨宮	真一

専門部会

1. 学内専門委員（規程第8条第3項）

総括	都市教養学部	生命科学コース	教授	可知	直毅 ※
庶務	都市教養学部	生命科学コース	助教	加藤	英寿(利用窓口)
	都市環境学部	都市基盤環境コース	助教	山崎	公子(小笠原クラブ)
	都市環境学部	自然・文化ツーリズムコース			
			助教	有馬	貴之(教育プログラム)
会計	都市教養学部	生命科学コース	教授	可知	直毅 ※
編集	都市教養学部	生命科学コース	教授	可知	直毅 ※
	オープンユニバーシティ		教授	ロング	ダニエル

2. 学外専門委員（規程第8条第4項）

小野 幹雄（元東京都立大学理学部／名誉教授）
 岡 秀一（元首都大学東京都市環境学部／客員研究員）

※ 第3条委員を兼ねる

2012 年度小笠原研究費会計報告

予 算		
1. 総 額		1,500,000 円
2. 支 出		
1) 旅 費		500,000 円
2) 物品費	小笠原研究年報 35 号 (2011 年度) / Ogasawara Research No 39 (2012 年度) 印刷費	650,000 円
	郵送費 (メール便)	50,000 円
	ホームページ管理費	150,000 円
	資料 PDF 化	50,000 円
	小計	900,000 円
3) 謝 金		100,000 円
	計	1,500,000 円
決 算		
1. 総 額		1,500,000 円
2. 支 出		
1) 旅 費	小笠原 4 回、伊豆大島 1 回、西千葉 3 回 返 納	488,630 円 11,370 円
	小計	500,000 円
2) 物品費	小笠原研究年報 35 号 印刷費 (含メール便費) Ogasawara Research No 38 増刷 印刷費 Ogasawara Research No 39 印刷費 ホームページリニューアル費 ホームページ管理費 小笠原関係資料スキャン費 消耗品 (ライフジャケット / 文具類等) 返 納	365,400 円 72,324 円 107,100 円 163,275 円 10,500 円 49,999 円 131,402 円 0 円
	小計	900,000 円
3) 謝 金	送付リスト管理・年報発送・HP 管理 返 納	99,510 円 490 円
	小計	100,000 円
	計	1,500,000 円

平成 24 年度 小笠原研究施設利用者一覧

期間	所属・職・氏名	目的
24. 6. 7 ～ 24. 7. 13	理工学研究科 客員研究員 川上和人 (森林総合研究所主任研究員) 東北大学生命科学研究科 院 生 青山夕貴子 森林総合研究所 主任研究員 長谷川元洋	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
24. 6. 8 ～ 24. 6. 14	理工学研究科生命科学専攻 特任研究員 畑 憲治	小笠原諸島における外来植物に関する調査
24. 6. 8 ～ 24. 6. 18	理工学研究科 客員研究員 石田 厚 (京大大学生態学研究センター 教授) 京都大学 生態学研究センター ポスドク 吉村健一 山梨県環境科学研究所 主任研究員 中野隆志 山梨県環境科学研究所 研究員 安田泰輔 理工学研究科 特別研究学生 才木真太郎 (京都大学院生) 特別研究学生 奥野匡哉 (京都大学院生)	小笠原の植物の生理生態学的研究
24. 6. 8 ～ 24. 7. 7	理工学研究科生命科学専攻 客員研究員 鈴木節子 (森林総合研究所研究員)	小笠原諸島の遺伝的多様性に関する研究
24. 6. 8 ～ 24. 8. 6	理工学研究科生命科学専攻 院 生 須貝杏子 都市教養学部生命科学コース 学部 4 年 大門夢果	小笠原諸島の植物の遺伝的多様性に関する研究
24. 6. 15 ～ 24. 7. 13	理工学研究科生命科学専攻 特任研究員 畑 憲治 国立環境研究所生物・生態系環境 研究センター 主任研究員 吉田 勝彦	小笠原諸島における外来植物に関する調査

期間	所属・職・氏名	目的
24. 6. 22 ～ 24. 7. 13	理工学研究科生命科学専攻 助 教 加藤英寿 理工学研究科生命科学専攻 特任研究員 小栗恵美子 理工学研究科生命科学専攻 院 生 谷島麻美 都市教養学部生命科学コース 学部4年 新田竜斗 京都大学大学院農学研究科 院 生 山本良介 京都大学農学部 学部4年 海野 大和	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
24. 6. 28 ～ 24. 7. 1	総務部施設課施設係 主 任 吉本康之 総務部施設課施設係 主 事 福里秀頼	小笠原研究施設不具合箇所等の調査
24. 6. 28 ～ 24. 7. 7	理工学研究科生命科学専攻 院 生 菅原弘貴 同 脇海道卓 同 橋本晃生 理工学系生命科学コース 学部4年 村上勇樹	小笠原諸島産ヤモリ類、オオムカデ類、アリモドキ類の分布に関する調査
24. 6. 28 ～ 24. 8. 9	理工学研究科生命科学専攻 院 生 高岡 愛	ヤギ駆除後の媒島における土壌の生産力に対する海鳥の影響
24. 7. 4 ～ 24. 7. 13	愛知教育大学教育学部 助 教 常木静河	小笠原諸島の植物の性表現に関する研究
24. 7. 10 ～ 24. 7. 19	富山大学大学院理工学研究科 教 授 内山 実 富山大学大学院理工学教育部 院 生 垣内祐貴 富山大学大学理学部生物学科 学部4年 宇都宮壮顕 同 野上智史	アノールトカゲの窒素代謝に係わる細胞膜輸送体とオヒキガエルの体液調節機構に関する研究
24. 7. 10 ～ 24. 8. 9	理工学研究科 特別研究学生 才木真太郎 (京都大学院生) 特別研究学生 奥野匡哉 (京都大学院生)	小笠原の植物の生理生態学的研究
24. 7. 28 ～ 24. 8. 6	都市環境科学研究科 特別研究学生 矢加部 友 (千葉大学大学院園芸学研究 科院生)	小笠原諸島におけるリュウキュウマツの分布および生育環境調査

期間	所属・職・氏名	目的
24. 8. 1 ～ 24. 8. 5	理工学研究科 客員研究員 平館俊太郎 (農業環境技術研究所主任研究員) 農業環境技術研究所 主任研究員 前島勇治 星槎大学 教授 宇津川 徹 プレック研究所 研究員 大原正之 研究員 磯崎年光	小笠原の土壌の多様性に関する研究
24. 8. 15 ～ 24. 8. 18	人文科学研究科 教授 ロング ダニエル 理工学研究科 教授 可知直毅 理工学研究科 客員研究員 石田 厚 (京都大学生態学研究センター教授) 八王子市立元八王子中学校 教諭 近藤日名子 静岡大学教育学部 教授 小西潤子 信州大学繊維学部 助教 森山 徹 人文社会系 学部2年 藤井和貴子 同 石尾奈月 学部1年 小河 建 同 根本尋江 法学系 学部1年 勝部 アセマン 光寿 理工学系 学部3年 川原田喬生 学部2年 平林 彩 学部1年 モハメッド 淳 システムデザイン学部 学部2年 早川聖奈 同 于 一 健康福祉学部 学部1年 関 麻衣 京都大学農学部 学部1年 大地健介 京都大学経済学部 学部1年 中 宏樹 同 大迫療平 静岡大学教育学部 学部2年 小川恵祐 信州大学繊維学部 学部3年 小松祐貴	都市教養学プログラム「自然と社会と文化」 小笠原コース

期間	所属・職・氏名	目的
24. 9. 15 ～ 24. 10. 2	都市環境学部自然・文化ツーリズムコース 助 教 有馬貴之 都市環境学部自然・文化ツーリズムコース 学部3年 塩川さところ 同 小川真弘	小笠原諸島における観光インパクトの調査、および小笠原支庁でのインターンシップ
24. 9. 22 ～ 24. 10. 15	理工学研究科 特別研究学生 才木真太郎 (京都大学院生) 特別研究学生 奥野匡哉 (京都大学院生)	小笠原の植物の生理生態学的研究
24. 9. 25 ～ 24. 10. 3	理工学研究科 客員研究員 川上和人 (森林総合研究所主任研究員) 東北大学生命科学研究科 院 生 青山夕貴子	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
24. 9. 29 ～ 24. 10. 8	理工学研究科生命科学専攻 特任研究員 畑 憲治	小笠原諸島における外来植物に関する調査
24. 11. 1 ～ 24. 11. 4	人文科学研究科 教 授 ロング ダニエル 人文科学研究科 院 生 磯野英治 同 金 文秀 同 豊國祥子 同 馬 雲 同 張 寧 都市環境学部分子応用化学コース 学部4年 本名 涼 都市環境学部 学部3年 座間千春 法学系 学部3年 宮崎恭平 学部2年 澤井 堯 学部1年 赤岩紗央里 経営学系 学部2年 堀田昌宏 学部1年 木下璃香 人文・社会系 学部2年 金 文官 都市政策コース 学部3年 小久保祐樹 理工学系生命科学コース 学部3年 鳥井友理香 学部1年 片山瑳紀 理工学系数理科学コース 学部1年 後藤裕貴	しまなびやまなび「小笠原文化体験講座」

期間	所属・職・氏名	目的
24. 11. 1 ～ 24. 11. 4	理工学研究科 教 授 可知直毅	小笠原における保全事業の視察と関係機関との協議
24. 11. 1 ～ 24. 11. 5	人文社会系社会人類学コース 学部4年 平野詩鶴	学部4年生の卒業研究に関する資料収集
24. 11. 1 ～ 24. 11. 10	都市政策コース 学部3年 小久保祐樹	しまなびやまなび「小笠原文化体験講座」参加及び小笠原の観光に関する調査
24. 11. 7 ～ 24. 11. 18	都市環境科学研究科都市基盤学域 助 教 山崎公子 都市環境学部都市基盤環境コース 技術職員 小峯美奈子 都市環境学部都市基盤環境コース 学部4年 石井陽一郎 愛媛大学大学院理工学研究科 院 生 加藤雄大 同 薦田麻衣	小笠原の上水道に関する研究
24. 11. 7 ～ 24. 11. 24	理工学研究科 客員研究員 鈴木節子 (森林総合研究所) 理工学研究科 客員研究員 永光輝義 (森林総合研究所)	小笠原諸島の植物の遺伝的多様性に関する研究
24. 11. 21 ～ 24. 11. 24	都市環境科学研究科 特別研究学生 矢加部 友 (千葉大学大学院園芸学研究 科院生)	小笠原諸島におけるリュウキュウマツの分布および環境調査
24. 11. 21 ～ 24. 12. 13	理工学研究科 客員研究員 石田 厚 (京大大学生態学研究センター 教授) 京大大学生態学研究センター ポストク研究員 吉村謙一 山梨県環境科学研究所 主任研究員 中野隆志 理工学研究科 特別研究学生 才木真太郎 (京都大学院生) 特別研究学生 奥野匡哉 (京都大学院生)	小笠原の植物の生理生態学的研究
24. 12. 4 ～ 24. 12. 14	理工学系生命科学コース 学部4年 村上勇樹	小笠原諸島産ヤモリ類、オオムカデ類、アリモドキ類の分布に関する調査

期間	所属・職・氏名	目的
24. 12. 4 ～ 24. 12. 19	理工学研究科 客員研究員 川上和人 (森林総合研究所主任研究員)	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
25. 2. 4 ～ 25. 2. 12	理工学研究科生命科学専攻 特任研究員 畑 憲治	小笠原諸島における外来植物に関する調査
25. 2. 9 ～ 25. 2. 12	理工学研究科生命科学専攻 特任研究員 小栗恵美子 都市教養学部生命科学コース 学部4年 新田竜斗	小笠原諸島の植物の遺伝的多様性に関する研究
25. 2. 21 ～ 25. 2. 24	理工学研究科 客員研究員 苅部治紀 (神奈川県立生命の星・地球 博物館主任学芸員)	小笠原諸島の昆虫相とその保全に関する研究
25. 2. 21 ～ 25. 3. 3	理工学研究科 客員研究員 堀越和夫 (小笠原自然文化研究所理事長) 小笠原自然文化研究所 研究員 佐々木哲郎 研究員 鈴木 創 研究員 栗原達郎 琉球大学熱帯生物圏研究センター 助 教 成瀬 貫 海の自然史研究所 理事長 藤田喜久 国立環境研究所 特別研究員 杉原 薫 沖縄美ら島財団総合研究センター 研究員 永田俊輔 千葉県立中央博物館 上席研究員 立川浩之	小笠原の海洋生物に関する研究
25. 2. 28 ～ 25. 3. 3	社会科学研究所 教 授 酒井享平	小笠原における司法過疎・生物多様性保護 の経済法学的見地からの実態調査
25. 3. 11 ～ 25. 3. 16	理工学研究科 客員研究員 川上和人 (森林総合研究所主任研究員) 東北大学生命科学研究科 院 生 青山夕貴子	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
25. 3. 21 ～ 25. 3. 24	理工学研究科 客員研究員 堀越和夫 (小笠原自然文化研究所理事長) 小笠原自然文化研究所 研究員 佐々木哲朗 研究員 鈴木 創 研究員 栗原達郎 神奈川県立生命の星・地球博物館 研究員 瀬能 宏	小笠原の海洋生物に関する研究

期間	所属・職・氏名	目的
25. 3. 21 ～ 25. 3. 28	理工学研究科生命科学専攻 助 教 加藤英寿 理工学研究科生命科学専攻 研究生 加藤朗子 都市教養学部生命科学コース 学部2年 新井沙和	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
25. 3. 28 ～ 25. 3. 31	人文科学研究科 教 授 ロング ダニエル 理工学研究科 教 授 可知直毅 理工学研究科 准教授 黒川 信 八王子市立元八王子中学校 教 諭 近藤日名子 人文社会研究科 院 生 磯野英治 人文社会系 学部2年 竹永恵理 学部1年 鍋島和弘 同 陳静賢 法学系 学部1年 平良彩 経営学系 学部2年 長櫓希菜 学部1年 島津厚史 同 晴海仁長 健康福祉学部 学部1年 中本康介 理工学系生命科学コース 学部1年 林下幹輝 同 重森 侑 同 武藤れおな 都市環境学部地理環境コース 学部1年 服部陽太 同 土屋淳悟 同 竹本佳文 同 日比谷佳乃 都市環境学部建築都市コース 学部3年 杉野早紀 システムデザイン学部ヒューマ ンメカトロニクス 学部1年 松尾 紗希	都市教養学プログラム「自然と社会と文化」 小笠原コース

平成 24 年度 小笠原研究施設等月別利用状況

(単位、人・日)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
施設利用者	教 員	実利用者数	0	0	1	3 (2)	3	1	1	3	0	0	3 (1)	6 (1)	21 (4)
		延利用者数	0	0	9	21 (14)	11	16	2	20	0	0	0	26 (3)	105 (17)
	院 生 学部生	実利用者数	0	0	14 (5)	17 (5)	21 (5)	5	5	22 (1)	3	0	1	20	108 (16)
		延利用者数	0	0	127 (48)	206 (53)	103 (20)	42	36	107 (4)	37	0	4	83	745 (105)
	客 員 研究員 研究生 研修員	実利用者数	0	0	13 (5)	9 (2)	6 (3)	2	2 (11)	3	4 (1)	0	11 (7)	16 (12)	66 (41)
		延利用者数	0	0	127 (48)	56 (7)	28 (19)	8	35 (4)	48	46 (10)	0	33 (8)	62 (41)	443 (137)
	月 計	実利用者数	0 (0)	0 (0)	28 (10)	29 (9)	30 (8)	8 (0)	8 (11)	28 (1)	7 (1)	0 (0)	15 (8)	42 (13)	195 (61)
		延利用者数	0 (0)	0 (0)	263 (96)	283 (74)	142 (39)	66 (0)	73 (4)	175 (4)	83 (10)	0 (0)	37 (8)	171 (44)	1293 (259)
	調 査 車 利用状況	延利用日数	0	0	7	9	4	11	4	16	0	0	7	9	67
		延 走 行 距 離 数	0	0	104	208	124	48	33	338	0	0	72	224	1151
		当 月 最 終 走 行 距 離	5470	5470	5574	5782	5906	5954	5987	6325	6325	6325	6397	6621	
	23 年度 月 計	実利用者数	10 (5)	6 (4)	15 (5)	14 (6)	27 (3)	8 (0)	18 (5)	12 (5)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	10 (1)	122 (34)
延利用者数		36 (8)	31 (16)	103 (36)	117 (34)	144 (12)	71 (0)	133 (35)	75 (21)	0 (0)	0 (0)	14 (0)	46 (4)	770 (166)	

注)

- 1 延利用者数は、3泊4日の場合、4人として計上した。
- 2 () 内の数は、本学に籍を持たない共同研究者であり、内数とした。
- 3 教員には、名誉教授を含む。
- 4 業者は、客員研究員研究生研修員の () に入れた。

— 小笠原研究施設利用について —

1. 小笠原での研究計画が具体的に決まったら、小笠原研究年報に記載の「首都大学東京小笠原研究施設使用要綱」をよく読み、施設使用の申請書を、使用開始希望日の2週間前までに小笠原施設利用窓口に出してください。2013年度の担当は、南大沢キャンパス・理工学研究科生命科学専攻・牧野標本館の加藤英寿（katohide@tmu.ac.jp、外線 042-677-2423、内線 2726）です。
2. 申請書には申請者の氏名、所属、身分、および施設使用者の氏名、所属、身分、目的、使用期間を明記してください。申請者は本学所属の教職員（名誉教授、客員教員、特任研究員、および客員研究員を含む）に限ります。小笠原に関連する研究課題を持つ本学大学院生および卒業研究生は指導教員を申請者にし、施設使用者として申請できます。また、本学での身分を持たない学外共同研究者の場合は、本学所属の利用者に同行することを原則とし、施設使用者欄に氏名、所属、身分を記入してください。
3. 使用許可がおりた後、出発の前日までに理系管理課庶務係（理工学系事務室）で施設使用許可書、施設利用マニュアル、施設の鍵を受け取ってください。
4. 施設の使用に当たっては、「小笠原研究施設使用マニュアル」をよく読み、間違いのないようにしてください。
5. 帰学後、必ず研究施設使用報告書を理系管理課庶務係に提出してください。
6. 施設使用マニュアル、申請書等の様式は、小笠原研究委員会のホームページ（<http://www.tmu-ogasawara.jp/>）からもダウンロードできます。

「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research」について

小笠原研究委員会は、「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research（小笠原研究）」の2種類の出版物を刊行している。「小笠原研究年報」は様々な分野・機関での研究の交流と、本学の小笠原研究成果などに関する情報を広く一般に提供することを目的とし、毎年5月に刊行する。印刷部数は600である。原稿メ切は1月20日とする。「Ogasawara Research（小笠原研究）」は原則として1論文1冊として主に英文の研究論文や総説を毎年3月に刊行する。印刷部数は750で、うち50部は執筆者渡し。両出版物とも原稿は主として編集委員会より依頼するが、自由な投稿も歓迎する。投稿要領は、小笠原研究委員会のホームページ (<http://www.tmu-ogasawara.jp/>) からダウンロードできる。

既刊号の入手に関する問い合わせ先は小笠原研究委員会（生命科学コース・可知）である。なお、2009年度以後の小笠原研究年報と Ogasawara Research は、首都大学東京の機関リポジトリ「みやこどり」(<http://www.repository.lib.tmu.ac.jp/dspace/>) で PDF 版が公開されている。

「小笠原研究年報」投稿要領

原稿は1行36文字、1ページ31行とする（A4横書）。

投稿にあたり希少生物等の保全に対して配慮すること。

原稿の体裁

表紙には、タイトル、著者名、著者のローマ字表記、著者の連絡先（住所、電話番号、ファックス番号、E-mail アドレス）を記入する。

本文の1ページ目の1行目にタイトル（中央揃え）を書く。2行目は空白とし、3行以後に著者名（所属）を記入する（共著者が3名の場合は3～5行目に記入）。著者名（所属）の後に空白行を1行入れる。

本文中の見出しは以下のようにする。

要約

I. はじめに

II. 材料と方法

1. 調査地の概要

さらに細かい小見出しは著者にまかせる。

本文中ではカンマとピリオド（, .）ではなく句読点（、。）を使用する。

要約は300字以内とする。

単位・数量の書き方

例：1/3、10%、15 m、40 km、63 g、3.5 t など、メートル法に準拠する。

本文中での文献の引用の仕方

上付きの1)などは用いない。日本語文献は、著者が2名以下の場合は「伊藤（1993）、内田・松田（1990）によると・・・」、著者が3名以上の場合は「木村ら（1993）によると・・・」のように引用する。文末の（）内での引用は「・・・が知られている（内田・松田、1990; Wilson *et al.*, 1992)。」や「・・・である（上田ほか、1993）」のように引用する（*et al.*はイタリック。（）内の複数文献は半角のセミコロンで区切る）。

欧文文献は、Balford & Thomas（1992）、3名以上はBurleu *et al.*（1982）のように引用する。文末の（）内での引用は、「・・・が知られている（Balford & Thomas, 1992; Wilson *et al.*, 1992)。」のように引用する。

引用文献の書き方

文献の言語にかかわらず第一著者の姓をアルファベット綴りした場合の、アルファベット順に並べる。同じ著者名が続いた場合も省略しない。雑誌名やProceedingsのタイトルは省略しない。各文献の最後のピリオドは、英語・日本語ともに半角のピリオドとする。

・日本語の論文

町田 洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出したテルラーアカホヤ火山灰．第四紀研究 17: 143-163.

・日本語の報告書

加藤芳郎・宇津川徹（1981）父島の土壌．小笠原諸島自然環境現況調査報告書（2）．東京都，133-142.

・日本語の単行本

町田 洋・新井房夫（1992）『火山灰アトラス』東京大学出版会，276p.

・日本語の単行本の一部

黒田 直（1992）土壌．小笠原自然環境研究会（編）『フィールドガイド小笠原の自然—東洋のガラパゴス』古今書院，46-51.

・欧文の論文

Aubry MP, Berggren WA & Kent DV (1988) Paleogene geochronology; an integrated approach. *Paleoceanography* 3: 707-742.

雑誌のタイトルはイタリックにする。

・欧文の報告書

Olsen RR & Cameron JL (1993) Larval development of the pencil urchin. *Proceedings of 6th International Echinoderm Conference*, 807p.

報告書のタイトルはイタリックにする。

・欧文の単行本

Fagri K & van der Pijl L (Eds.) (1979) *The Principles of Pollination Ecology*. Pergamon Press. 500p.

本のタイトルはイタリックにする。

・ 欧文の単行本の一部

Hori R, Pang VPE & Jin LT (1991) *On the pattern of gonadal development of the sea urchin*. In: *Biology of Echinodermata* (Ed. by Yanagisawa *et al.*), 249-255.

本のタイトルはイタリックにする。

表

表は1つずつ別紙に書かなければならない。1つの表は原則として1ページに印刷できる大きさとする。1ページを越える表については2つ以上に分割する。表のタイトルと説明は表の先頭を書く。各表のタイトルと説明は、まず「表1」のように書き、ついで表題を挙げたのち、本文を読まなくとも理解できる程度に、説明を加える。

図

各図ひとつをそれぞれ別紙にして、完全版下でそのまま製版できる状態のものを本文の最後に順番に添付する。カラー図版を希望する場合は事前に編集委員会に相談すること。図の説明は別紙にまとめて書く。各図の説明は、まず「図1」のように書き、ついで表題を挙げたのち、本文を読まなくとも理解できる程度に、説明を加える。図の作画者や写真の撮影者が著者と異なるときは、そのことを明記し、また必要な場合は、著者においてあらかじめ著作権者の許可を受けておくこと。

投稿と編集

原稿~~メ~~切は原則として毎年1月20日とする。原稿の掲載可否は編集委員で決定する。E-mailの添付ファイルあるいはCD-R等で編集委員会宛に送付する。なお添付ファイルの上限は10MBとする。本文はWindows版Microsoft Wordで作成し、1つのファイルにする(一太郎等で作成した場合はWord形式に変換する)。Macintosh版の場合は、Windowsで読める形式に変換する。使用するフォントは、小見出しはMSゴシック、それ以外はMS明朝とする。表はWindows版Microsoft Excelで作成する。複数の表が存在する場合は、表ごとにファイルを作成するか、1つのファイルに別シートとして作成する。図は、画像ファイル(EPS、TIFF、JPEGなどの形式)として作成する。複数の図が存在する場合は、図ごとにファイルを作成する。

校正

原則として初校の校正は著者が行ない、再校以降は編集者が行う。著者校正は印刷上の誤りについてだけ行ない、内容や図表の変更は認められない。

別刷

各報文について50部を著者に無料で提供する。それ以上の別刷を希望する場合は著者負担とする。

「Ogasawara Research (小笠原研究)」投稿要領

掲載論文

主として小笠原に直接または間接に関係をもったオリジナルな学術論文、調査報告、総説など。かなり長い報文で一冊として刊行するのが適当なものを優先するが編集委員会の判断で短い報文も一冊に含めて掲載する場合がある。又、投稿にあたり希少生物等の保全に対して配慮すること。

論文の体裁と執筆要領

英文、和文ともワープロを使用し、そのままオフセット印刷できるように図表を張りこんだ原稿（A4、横書き）を作成する。原稿の表にはページ番号をふらず、裏に鉛筆書きでページ番号を記入する。英語と日本語のキーワードをそれぞれ5つ以内で挙げる（英語キーワードのアルファベット順）。キーワードには、原稿タイトルに含まれる語句は含まない。英文報文には和文要旨を、和文報文には英文要旨を References または引用文献の次のページにつける。章節のたて方は基本的に執筆者に任せるが脚注はできるだけ用いない。

文献引用の仕方、文献表の書き方は英文報文の場合、日本生態学会の英文誌である Ecological Research を、和文報文の場合、日本生態学会の和文誌である日本生態学会誌の規定を標準として参考とされたい。詳しい情報は、日本生態学のウェブサイト (<http://www.esj.ne.jp/esj/>) の日本生態学会誌投稿規定のページおよび Ecological Research のウェブサイト (<http://www.springer.com/11284>) に記載されている。

投稿と編集

原稿メ切は原則として毎年1月20日。電子ファイルとプリントアウト1部を編集委員会あてに送付する。原稿の掲載可否は編集委員会で決定する。電子ファイルの場合、本文は Microsoft Word、表は Microsoft Excel、図・写真は EPS、TIFF、JPEG など形式とするか、これらのファイルを1つの PDF ファイルにまとめたものとする。編集は、論文の内容によっては編集委員長が委任する臨時の編集委員によって行われる場合がある。なお、出版費が限られているので、投稿予定がある場合はあらかじめ12月中に編集委員会に相談すること。投稿は首都大学東京関係者以外からも受け付ける。他の著作からの図表を引用する場合は、著者の責任で出版社など著作権者の了解を取ること。

校正

原稿はそのままオフセット印刷されるため校正は不可能であるので、投稿時に十分注意すること。

投稿者へのお願い

今後、「小笠原研究年報」「Ogasawara Research」掲載の報文の全文あるいはその一部がインターネット文献検索サイト上に掲載されることも多くなると思われます。委員会宛に要請のあったものについてはできるだけ協力していきたいと考えておりますが、その中には「著作権の処理」をすませしておく必要のあるものもあります。そこで、投稿される報文につきまして、あらかじめ電子化・公開することの許諾をいただければと存じます。特にご異存なければこのページをコピーし、下段の許諾書に署名または捺印の上、小笠原研究委員会宛お送り下さい。

なお許諾を頂けない場合はその旨お知らせいただければ幸いです。

小笠原研究委員会

許 諾 書

小笠原研究委員会 殿

年度「小笠原研究年報」「Ogasawara Research」掲載の自著報文類の電子化・公開については、これを許諾します。

年 月 日

氏名：

※ 著者が複数の場合はこの用紙にまとめて署名してもけっこうです。

首都大学東京小笠原研究施設使用要綱

(趣 旨)

第 一 条 この要綱は、首都大学東京小笠原研究委員会規程第9条に基づき、首都大学東京小笠原研究施設（以下「小笠原施設」という。）の使用について、必要な事項を定めるものとする。

(使用目的)

第 二 条 小笠原施設の使用は、小笠原諸島の自然及び社会を研究するとともに、同諸島の発展に基礎的分野で貢献することを目的とする。

(使用資格)

第 三 条 小笠原施設を使用できる者は次の各号の一に該当する者とする。

- 一 本学の教職員（名誉教授及び客員教授（研究員）を含む。以下同じ）。
- 二 本学の学生
- 三 本学の教職員の共同研究者

2 前項第二号及び第三号に規定するものにあつては、原則として、本学教職員に同行するものとする。

(使用手続)

第 四 条 小笠原施設を使用しようとするものは、別記様式第1号により小笠原研究委員会委員長（以下「委員長」という。）に申請しなければならない。

2 委員長は、使用を認めたときは、別記様式第2号により使用許可を通知するものとする。

3 使用者は、使用許可証を所持し、必要に応じて提示しなければならない。

(使用者の義務)

第 五 条 使用者は、別に定める使用者心得を守り、施設、設備を良好な状態に保つように努めなければならない。

(現状回復等)

第 六 条 使用者は、その責に帰する事由により、建物、設備及び備品等をき損、汚染又は滅失したときは、現状に回復し又はその損害を賠償しなければならない。

(転貸等の禁止)

第 七 条 使用者は、小笠原施設をその用途以外に使用し、又は他の者に使用させてはならない。

(使用許可の取消)

第 八 条 委員長は、使用者が次の各号の一に該当する場合には使用の途中であっても使用許可を取り消すことができる。

- 一 申請の内容に虚偽があったとき。
- 二 使用者心得を守らないとき。

2 使用許可の取消しによって生ずる使用者の損害に関しては、使用者自らがその責を負うものとする。

(使用期限の延長)

第 九 条 研究上その他の理由で使用期限の延長が必要となった場合は、事前に委員長に期限延長を申請し、その許可を得なければならない。

(使用報告書の提出)

第 十 条 使用者は、使用報告書を使用終了後、別記様式第 3 号により速やかに委員長に報告しなければならない。

(調査用自動車の使用)

第十一 条 小笠原施設の調査用自動車を使用する場合は、施設の使用を申請するに併せて別記様式第 4 号により、使用の許可を理系管理課長に申請するものとする。

2 調査用自動車の使用は本学の教職員に限る。

3 使用者は、調査用自動車運転日誌を、別記様式第 5 号により提出しなければならない。

(展示ホールの公開)

第十二 条 小笠原施設の展示ホールは、使用者の滞在中、住民の見学に供されるものとする。

(研究成果)

第十三 条 小笠原施設においてなされた研究の成果は、小笠原施設の研究業績として登録されるものとする。

(その他)

第十四 条 使用者は、この要綱に定めるもののほか、小笠原研究委員会が定める指示に従わなければならない。

首都大学東京小笠原研究施設使用申請書

平成 年 月 日

小笠原研究委員会委員長 殿

所 属
職 名
氏 名 ⑩

内線番号 ()

下記のとおり施設使用を申請いたします。

記

1 目 的 (研究内容)

2 使 用 期 間

自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日 延べ ()日^{注)}

3 使用者所属・職 (学年)・氏名 ※代表者を含む全員を記入すること

4 庁 有 車

1. 使用しない
2. 使用する 平成 年 月 日～平成 年 月 日

5 その他

注) 使用者ごとに使用期間が異なる場合は、項目3の各氏名の後に使用者ごとの使用日数を括弧書きすること

平成 年 月 日

上記申請について 許可・不許可 とする。

委員長	総務担当	事務局	管理課長	庶務係長	担 当

首都大学東京小笠原研究施設使用申請結果通知

平成 年 月 日

殿

小笠原研究委員会
委員長



審議の結果

下記のとおり施設使用を許可します。

下記のとおり施設使用を不許可とします。

記

1 目的（研究内容）

2 使用期間

自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日 延べ（ 日）^{注)}

3 使用者所属・職（学年）・氏名 ※代表者を含む全員を記入すること

4 庁有車

1. 使用しない
2. 使用する 平成 年 月 日～平成 年 月 日

5 その他

注) 使用者ごとに使用期間が異なる場合は、項目3の各氏名の後に使用者ごとの使用
日数を括弧書きですること

<許可に伴う付帯条件または不許可の理由>

首都大学東京小笠原研究施設使用報告書

平成 年 月 日

小笠原研究委員会委員長 殿

所 属
職 名
氏 名 ⑩

内線番号 ()

下記のとおり施設使用しましたので報告します。

記

1 目 的 (研究内容)

2 使 用 期 間

自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日 延べ ()^{注)}

3 使用者所属・職 (学年)・氏名 ※代表者を含む全員を記入すること

4 庁 有 車

- 1. 使用しなかった
- 2. 使用した 平成 年 月 日～平成 年 月 日

5 その他 (施設の最終点検・異常等)

- 浴室・台所・湯沸器のガス元栓 施錠 (窓、出入り口) 各室消灯
- 引継 (他のグループ代表者氏名:)
- その他 []

注) 使用者ごとに使用期間が異なる場合は、項目3の各氏名の後に使用者ごとの使用日数を括弧書きすること

報告内容について確認しました。

平成 年 月 日

委員長	総務担当

事務局	管理課長	庶務係長	担 当

小笠原調査報告書

____年 ____月 ____日提出

1 研究テーマ

2 研究代表者

氏 名 _____

所 属 _____

住 所 _____

電話/ファックス _____

E-mail _____

3 共同研究者氏名（所属・学年／身分）（研究協力者を含む）

4 研究期間（西暦）____年 ____月 ____日 ～ ____年 ____月 ____日

5 小笠原研究施設利用 有 無（該当する方に○）

6 調査の概要（書き切れない場合は別紙に）

1) 調査対象地域

2) 調査内容（400字程度）

〈編集担当者〉

編集委員長 可知直毅 (理工学研究科 教授)
編集委員 ロング ダニエル (人文科学研究科 教授)
編集補助 畑 憲 治 (理工学研究科 特任研究員)
谷 美 津 子 (理工学研究科 リサーチアシスタント)

印刷・発行日：2013年5月10日

発行者：首都大学東京小笠原研究委員会
委員長 可知 直 毅
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
首都大学東京 理工学研究科内
電話 042-677-1111 (代表)
メールアドレス island@tmu.ac.jp
ウェブサイト <http://www.tmu-ogasawara.jp/>

印刷：(株)相模プリント
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17
電話 042-772-1275



古紙配合率70%再生紙を使用しています

